

千葉県東総地区における がん患者への支援体制について

国保旭中央病院 医療連携福祉相談室

社会福祉士 佐久間裕子

旭市について



人口:6万8千人

高齢化率:24.1%

都心から80Km

農業産出額県内1位

農業、漁業が発展

ハウス栽培

畜産業

水産業・水産加工業

旭中央病院について

経営母体:旭市

**診療圏:千葉県東部及び茨城県鹿島地区を含む
東南部の13市7町**

診療圏人口:約100万人

病床数:989床(一般763床)

病床利用率:88.9%

在院日数:13.0日

救急受診者数:約4.8万人/年

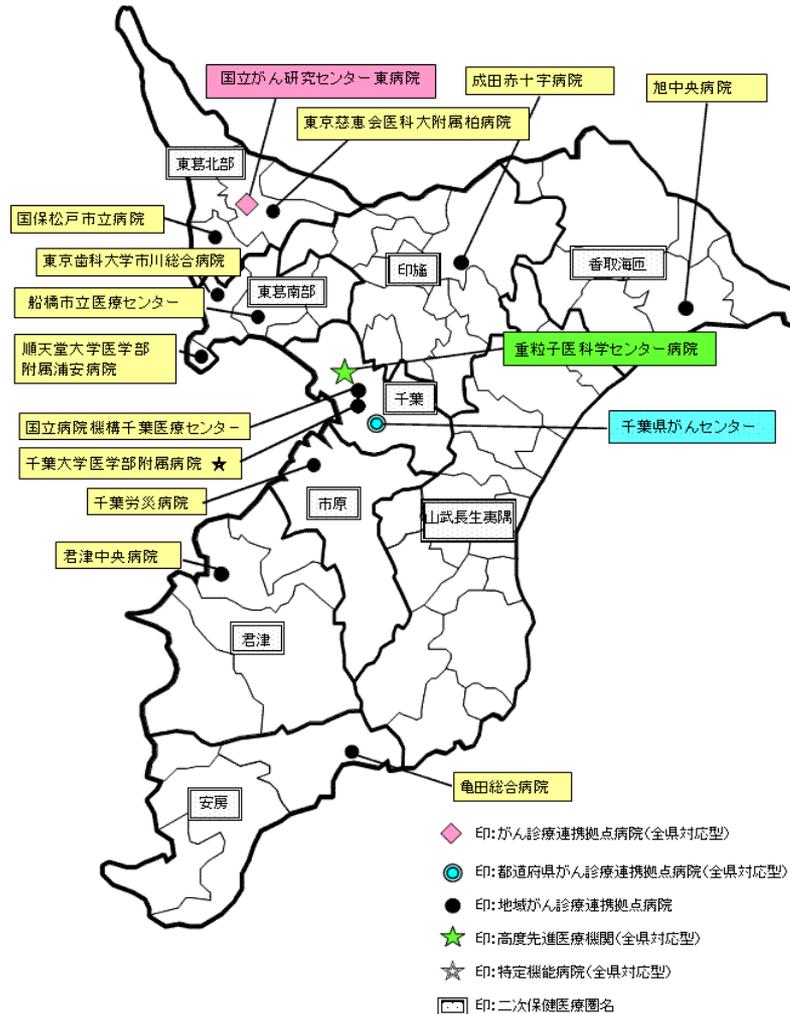
外来患者数:約2,500人/日 (2014年10月現在)

**地域がん診療拠点病院、緩和ケア病棟(20床)
救命救急センター、地域難病支援病院等の機
能を持つ地域の中核病院**

**医療連携福祉相談室 社会福祉士11名
(MSW)**

千葉県がん診療連携拠点病院について

がん診療連携拠点病院及び高度先進医療機関



単身者の治療継続における課題

1. 通院時間
2. 在宅ケア、緩和ケアの資源
3. 単身者へのサポート

単身者の治療継続における課題

1. 通院時間

旭市から公共交通機関で…

国立がんセンター中央病院まで 約2時間30分

国立がんセンター東病院まで 約3時間30分

千葉県がんセンターまで 約2時間

東京まで通いきれない...

専門病院からは、緩和ケアの段階での紹介が多い。

- 「症状緩和」
- 「積極的な治療が終了」
→ 当院にも通いきれなくなる可能性あり。
- 緩和ケア病棟への入院を希望される。

旭中央病院周辺の交通事情

- 電車…1時間に1～2本
- 駅から病院まで…徒歩20分
無料の送迎バスあり。
- 近隣市町村の循環バスの利用
- 駐車場 1,173台分 自家用車での来院が多い。

旭中央病院まで通いきれない...

紹介率… 35 % 逆紹介率… 35 %

(2014年9月)

- かかりつけ医を持たず、直接紹介状なしで受診する傾向あり。救急外来も24時間1次救急～3次救急まで受け付ける。
(選定療養費の設定あり)
- 紹介患者センターの活用…かかりつけ医を探すことが難しい。

- 自家用車、電車、バスで通院できなくなると、タクシーを利用するなど経済的な負担が大きくなる。
- 長時間かけての通院、長い待ち時間が体力的な負担となる。
- 通院サポートの有無が大きく影響する。

最期まで病院で...

できるだけ治療を続けたい。

そのためには、治療のできる病院へ通う必要がある。



動けなくなるまでは、治療を続けたい。

通院手段の確保とサポートが必要。

単身者の治療継続における課題

2. 緩和ケア・在宅ケアの資源

- ・訪問看護ステーション…「看取り対応」
「24時間対応」
連携できる往診医が見つからない。
- ・往診医…在宅療養支援診療所が少ない。
疼痛管理（麻薬）ができる医師が限られる。
受け持ち患者さんが多く、もともと診察していた患者のみを往診している。

単身者の治療継続における課題

3. 単身者へのサポート

日常生活のサポート

- 家事支援… 買い物(商店まで遠い)、掃除
- 身体介護… 排泄介助、入浴介助、安否確認
- 医療行為… ドレーン管理、服薬管理、ストーマ管理、点滴管理、呼吸器管理、疼痛管理。
- 生活環境… 日本家屋で段差が多い。近隣に家がない。近所に商店がない。バス停まで徒歩30分かかる。等。

メンタルサポート

- ・不安を訴える相手がいない。
- ・判断を相談する相手がいない。
- ・「他人に相談する」こと自体に慣れていない。
- ・積極的治療ができなくなったことをどうサポートするか。
→自己決定の支援。

病院⇔家と生活する場所が変わっても、支援が
継続していくことが重要。

相談員⇔ケアマネ・訪問看護
(在宅生活に関わる人々)

- ・入院中→相談員・病院スタッフ
- ・在宅 →ケアマネ・在宅スタッフ

お互いが、任せきりにならないように連携する。

死の準備

- 本人が「やっておきたいこと」
- 入院費の支払い
- 葬儀の段取り、死亡届の届出人
- 自宅の整理
- 遺品の整理
- お墓

倫理的配慮:

研究目的で知り得た情報は研究目的以外に使用しないことを口頭で承諾を得る。

事例

先を見通すための支援

- ・単身者は「家族がやってくれる」「家族が決めてくれる」ではダメ。
- ・「これから自分がどうなるのか」を理解して決定していく。「そうなってから考える」では間に合わない。
- ・患者様自身が死後のことも考える必要がある。「死んだあとのことは心配だが、考えたくない」という気持ち。
→自己決定を支援。

- 本人の病期、ADL、判断能力に合わせた自己決定を支援する。
- その時々でかかわる支援者が継続性をもって支援する。
- 支援者自身も先を見通した支援を展開する必要がある。